

設立後の活動 (平成17年4月～平成18年1月)

【久山町研究の現状】

- 久山町健康福祉課と九州大学久山町研究室の健診事業
:受診者数2201名
- 久山町健康福祉課と九州大学久山町研究室の高齢者健康調査
:現在進行中
- 学術論文発表:2005年は欧文原著8報と和文原著3報
- 褒賞
 - ①久山町健康福祉課保健師グループ(河辺シカノ、和田紀子、角森輝美、物袋由美子、稲永みき、持松加奈子)が地域と密着して生活習慣病予防のため貢献したことが評価され、第1回日本心臓財団小林太刀夫賞を受賞(平成17年5月27日)。
 - ②久山町住民を対象とした臨床疫学グループ(代表 尾前照雄、故勝木司馬之助、故藤島正敏、飯田三雄)が成人血管病研究振興財団 第2回井村臨床研究賞を受賞(平成17年12月10日)。
- ヘルスC&Cセンター視察訪問
 - ①Case Western Reserve 大学(アメリカ合衆国オハイオ州)のRobert P. Friedland教授が認知症調査に関する視察のため訪問(平成17年4月5日)。
 - ②長浜市(長浜市長、長浜市議会議長、市立長浜病院長、京都大学大学院医学研究科環境衛生分野教授2名、他)が、大学との共同連携による疫学調査研究の取り組みの状況を視察のため訪問(平成17年10月6日)。

【推進中の事業】

- ①急性期脳卒中データベース事業
(統計情報提供、受託解析、臨床研究受託)
九州大学病院ならびに関連6病院が参画する福岡脳卒中データベースを構築して、大規模臨床試験や基礎研究に有効利用しようとする事業である。当法人は基盤の構築から事業化までを支援する。
- ②脳梗塞新規感受性遺伝子の共同研究の推進
九州大学久山町研究室では、ゲノム疫学研究の一環として、脳梗塞感受性遺伝子の探索研究を東京大学医科学研究所と共同で行っている。当法人は、民間企業との共同研究による実用化を支援している。
- ③ひさやま方式健康管理に基づくコンサルティング
ひさやま元気予報は、10年後の疾病発症リスクを予測するシステムで、久山町研究室と株NTTデータが共同で開発している。医師が住民等へ健康指導を行う際に、有益な情報を分かりやすく提供する。当法人はこのシステムの実用化を支援している。
- ④久山疫学データベース事業
久山町研究室では、過去40年以上にわたる健診データをデータベース化して研究に利用している。当法人は、このデータベースの構築・維持・活用を支援しており、民間企業から受託解析事業を開始した。



第1回社員総会の開催風景



賛助社員の募集

本法人の活動にご賛同下さる方は、賛助社員としてご支援頂ければ幸いです。個人1口1万円から、団体1口10万円から、何口でも結構です。詳しくは、事務局までご一報頂きますか、または、ホームページをご覧ください。

今後の計画

- ①共同研究(国内外)、受託研究の募集と推進
- ②生活習慣病に関する予防啓発活動、講習会など
- ③学会への参加と支援

HisayamaLIFE Newsletter 創刊号

2006年2月1日発行
編集・発行:有限責任中間法人 久山生活習慣病研究所
(担当:新田 直人)

〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原1822-1
(ヘルスC&Cセンター内)
TEL:092-652-3032 FAX:092-652-3075
携帯:090-8873-8289
URL:http://www.hisayamalife.or.jp/
E-MAIL:info@hisayamalife.or.jp

有限責任中間法人 久山生活習慣病研究所

創刊のご挨拶

代表理事 尾前 照雄



2005年4月に有限責任中間法人久山生活習慣病研究所(通称:HisayamaLIFE)を設立しました。この法人は九州大学医学部と久山町が一体となって続けてきた生活習慣病の研究を推進しその成果を社会に還元する母体となるためのものです。この研究は、40年来その中心的活動を担ってきた医学部の第2内科と病理学教室のみならず、生活習慣病の予防と治療法の開発を目指す各分野の研究者、企業関係者などの協力を得て今後の事業をすすめたいと考えています。その分野は生命科学全般に深く関係するものでありましよう。遺伝と環境がすべての生命現象を支配していますが、近年この領域、特に遺伝学は飛躍的な発展をみせ、病気の予防と治療、健康寿命の延長に大きな期待がかけられています。これは人類永遠の夢でもありましよう。久山町研究は40数年来久山町住民の積極的な参加によって続けられ世界に類のない貴重な医学上の資産が蓄積されております。これをさらに継続発展させることが念願であります。研究の範囲は広くきわめて深いと考えておりますが、創意工夫をこらし着実な歩みを続けたいと考えております。住民の方々には研究対象者ではなく研究への直接参加者でありますので、これまで以上の御理解と御協力を是非たまりたく念

願っております。日本の医学はこれまで西洋の医学を多く輸入して発展してきました。日本人の疾病構造が欧米人のそれとは異なっていることがこれまでの久山町研究によっても明確にされてきました。今後そのメカニズムの解明は世界の医学に大きく貢献することが期待されます。その意味で諸外国との共同研究と研究者の交流、人材の育成も重要な課題と考えております。社員は21名と3団体からなり、前者はこれまで久山町研究に携わってきた九州大学の教授と研究者、中村学園大学食物栄養科教授、久山町の開業医師らです。3団体は久山町、株式会社NTTデータ、ヒュービットジェノミクス株式会社です。理事13名と監事2名には各界の代表者にご就任いただいております。今後とも一層の御支援、御協力を切に願って止まない次第です。

事業目的

当法人は、地域住民を対象とした生活習慣病の疫学研究および臨床研究を推進し、先端科学技術の発達と生活習慣病の克服を目的としています。この目的のため、次の事業を行います(定款第4条からの抜粋)。

- (1) 久山町臨床疫学研究の支援及びその他の臨床疫学研究の受託
- (2) 地域住民の健康づくり
- (3) 科学的根拠に基づく医療と予防医学の推進
- (4) 研究成果の事業化、産業化
- (5) 国際的科学技術交流と共同研究の推進
- (6) 知的財産権、その他の権利の調査、権利化の支援、適切な権利行使
- (7) 医学教育、患者教育、健康指導、健康管理コンサルティング
- (8) 人材の養成、派遣
- (9) その他本研究所の目的を達成するために必要な事業

役員名簿 (敬称略)

代表理事	尾前 照雄	国立循環器病センター名誉総長 久山町ヘルスC&Cセンター長	理事	佐渡島省三	医療法人社団新日鐵八幡 記念病院理事長・院長
副代表理事	鮎川 正義 飯田 三雄	久山町長 九州大学大学院医学研究院 病態機能内科学教授		水田 祥代 田中 健蔵 田平 武	九州大学病院長 福岡歯科学園理事長 国立長寿医療センター研究所長
常務理事	清原 裕	九州大学大学院医学研究院 環境医学教授		友池 仁暢 佐伯 源吾 平井 昭光	国立循環器病センター病院長 久山町議会議長 レックスウェル法律特許事務所 弁護士・弁理士
理事	池田 俊彦 (五十音順) 上野 道雄	福岡県医師会副会長 独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター院長			
	梶山 千里 鎌田 迪貞	九州大学総長 社団法人九州・山口 経済連合会会長			

久山町のご紹介

久山町は、福岡市の東部に隣接し、町の面積は37km²ですが3分の2は、山林原野で山と緑に囲まれた人口8千人弱の小さな町です。主な産業は農林業や花卉園芸ですが、最近では兼業農家が殆どです。町から福岡市の中心部まで車で約30分、福岡空港、JR博多駅まで20分、九州自動車道福岡インターまで10分と地理的条件が大変良いところです。

昭和45年都市計画法の施行と同時に町の96%を市街化調整区域に指定し、乱開発を防止するとともに緑を保全するため急速な都市化を防止しながら自然環境の保全と急速な人口の流入を抑制してきました。周辺市町村は、急激な人口の増加と都市化が進んでおりますが、久山町は40年近く人口の変動が無く、緑豊かな田園景観を維持してまいりました。

昭和36年久山町は、九州大学医学部第二内科の医学研究の指定を受け、健診事業と大学の久山町研究がスタートいたしました。これを契機に久山町は健康を町行政の柱に据え今日に至っております。

まちづくりの基本は、健康で明るく楽しい地域社会の構築にあります。そのためには安全で美しい水やきれいな空気の中に機能性を持った住環境の整備、そしてそこに集う人々が心身ともに健康で思いやりのある社会を築いて行く土壌造りが重要と考えております。これを実現するため、平成元年には久山町の基本構想「久山健康田園都市構想」を決定し、その基本理念を「国土

副代表理事 鮎川 正義



の健康」・「社会の健康」・「人の健康」の3つの健康の実現を目指し今日に至っております。

なかでも九州大学医学部第二内科との共同研究事業は町を挙げて取組んできました。この事業が誇る、高い健診受診率や剖検への協力は、町民の「医学の発展に貢献しようという崇高な精神」と献身的にこれに関わってきた医師が長い間培ってきた町民と医師の信頼関係の上に成立っております。

平成3年には、この事業の30年を記念し「健康の碑」を建立し意志の再確認をしたところでした。

この40年間の研究成果を生かして新しい時代の医学の発展に貢献することが私たちの使命であると考えます。

有限責任中間法人 久山生活習慣病研究所の設立と、久山町と九州大学そしてこの法人の三者覚書の締結は、産・官・学が共同して、其々の立場で其々の機能を十分に発揮し研究を支え合い、その成果を共有するなど新しい時代の新しいスタイルだと思っております。

この法人の発展は世界の医学・医療への貢献と延いては町民への還元に繋がると確信し今後の研究の進展に大きな期待をいたしております。

病態機能内科学(第二内科)教室とHisayamaLIFE

副代表理事 飯田 三雄



社の増進と恒常的な研究費の獲得につながる事が期待されます。

現在、教室では東大医科研との共同研究である新規脳梗塞関連遺伝子の探索や急性期脳卒中患者のデータベース化が進行中です。引き続き、潰瘍性大腸炎関連遺伝子の探索や消化器疾患患者のデータベース化なども他施設との共同研究として計画されています。当科の教員(研究室主任)の多くはこの法人の社員を兼ねているため、法人の運営が軌道に乗れば教室全体の活性化をもたらすことは間違いないものと確信しています。

久山町研究の特徴として、剖検率80%を維持していることが挙げられますが、これは本学医学研究院病理学教室(病理病態学、形態機能病理学)の全面的協力によって支えられています。また、認知症については脳神経病理と精神科、眼疾患については眼科、歯周病については歯学研究院(予防歯科)との共同研究が現在進行中です。さらに、生体防御医学研究所(脳機能制御学)や医療情報部とも連携しており、今後は他の研究院をも巻き込んだ学際研究へと発展することを目指しています。

久山町研究のご紹介

常務理事 清原 裕



久山町研究は、45年の歴史を有する、脳卒中など多くの生活習慣病を対象とした疫学研究で、世界に類を見ない精度を誇っています。過去に蓄積された膨大な疫学情報はデータベース化され、その解析結果は生活習慣病に関する様々な医学分野で注目されています。久山町では、2002年から文部科学省のリーディングプロジェクトとして、生活習慣病のゲノム疫学研究が開始されました。現在このプロジェクトの一環として、新しい脳梗塞の関連遺伝子の探索研究が進行中ですが、着々と成果を挙げています。またこのプロジェクトでは、ゲノム疫学研究を支えるバイオインフォマティクスに関する研究を推進し、セキュリティシステムを構築して、研究対象の方が安心して研究に参加できる環境を作っています。その他、健診受診者の健診データから高血圧、糖尿病、心血管病など生活習慣の将来の発症予測を行い、健康管理に役立てることを目的としたプログラムソフトを開発し、これを「ひさやま元気予報」と名づけ、現在実用化を目指して商標登録出願を行っています。これらの疫学データベース、脳梗塞関連遺伝子研究、「ひさやま元気予報」などの成果は九州大学内部に留めておくべき

のではなく、久山町住民のみならず国内外に普及させて広く活用・実用化していくべきものと考えています。HisayamaLIFEがその任に当たります。

疫学データベースの解析情報については、ご相談頂ければ製薬・食品・保険業界のニーズに応じた解析結果を提供できるようにしたいと考えています。脳梗塞関連遺伝子に関する研究成果については、昨秋、日本製薬工業協会でのプレゼンテーションを行い、興味を持って頂いた製薬企業とゲノム創薬に向けた今後の共同研究について交渉中です。また、「ひさやま元気予報」とそのノウハウを、健保組合の加入者の健康管理に活用するプロジェクトが進行中です。

HisayamaLIFEを通じて久山町の健診事業と久山町研究がさらに発展し、その成果が久山町住民の方々だけでなく国民全体の健康増進と産業の育成・発展につながることを期待しています。今後ともご理解・ご支援を宜しくお願い致します。

九州大学の紹介

理事・九州大学総長 梶山 千里



九州大学は、1911年に九州帝国大学として誕生して以来、約1世紀にわたって、多くの人材を世に送り出し、顕著な研究成果を社会に発信し続けています。

九州大学は、「教育」「研究」「社会貢献」「国際貢献」を活動の4本の柱とし、「実績に基づく新科学領域への展開」と「歴史的・地理的な必然が導くアジア指向」を将来に向けた基本的方向性として、様々な活動を活発に展開しています。分野を越えて学ぶ21世紀プログラム、文理融合型の様々な研究プロジェクト、組織対応型産学連携の進捗、アジア学長会議の主催などはその成果の一端です。

平成17年10月には、九州大学の新たな中心となる伊都(いと)キャンパスが誕生しました。総面積275haと広大なこのキャンパスは、学生や教職員が喜びを感じながら学び、研究し、居住する、また一般市民の方々が知的生活の一部として活用することができる、21世紀型の新しいキャンパス像を提示するでしょう。また、医歯薬学系のある病院地区では、生命科学分野の教育研究を充実さ

せ、病院機能をいっそう発展させるべく、再開発が進んでいます。

有限責任中間法人久山生活習慣病研究所は九州大学の久山町研究(疫学)と臨床研究の成果を活用・実用化して社会に還元することを目的とする法人です。将来は、医学全般、薬学、農学、工学などの学問分野の協力を得て、医療、医薬、食品、介護等の分野で世界に貢献することを展望しています。まさに研究成果を社会へ還元する壮大な構想を実現するための産(企業)官(久山町)学(九州大学)民(久山町民)連携組織と言えます。

平成17年11月1日には、久山町、九州大学ならびにこの法人の三者が覚書を締結しました。これは三者の久山町研究に関する基本精神を確認すると共に、今後得られる様々な研究成果の社会普及を促進するための協力関係構築を明確にするものです。今後の進展にご期待ください。



健康の碑

私たち久山町民は「自分の健康は自らまもるもの」であることを学びました。それは昭和36年九州大学医学部教授勝木司馬之助氏の来訪に始まり、当時の町長江口浩平氏並びに町議会、各種団体、保健婦、町内開業医、安楽寺住職故亀井恵達師などのたゆみない努力と町民の理解によって進められた共同研究の成果であり、尊い教訓であります。特に30年におよぶ歴史の中で、亡くなられた方の81パーセントに及ぶ剖検の偉業は、当時この事業に携わった若き医学徒の脳卒中の原因を解明するという学問的な情熱と住民に対する献身的な取り組みがあつてこそ実現したということをお忘れではありません。

爾来、ひたすら住民の健康を希求し、世界に比類のない集団的な剖検「ひさやま方式」をなし遂げてまいりましたが、生活様式が多様化や社会構造変化等に伴う新たな対応が問われる現今において、さらにこれまでの実績を踏まえた基本理念のもとに全人的な健康ネットワークを形成し、健やかな地域社会をつくるために21世紀に向けて第二の出発をすることといたしました。

ここに剖検者の功德に敬意を表するとともに健康情報発進基地「久山町」のシンボルとして健康の碑を建立するものであります。

平成3年10月13日建立 久山町長 小早川 新